

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

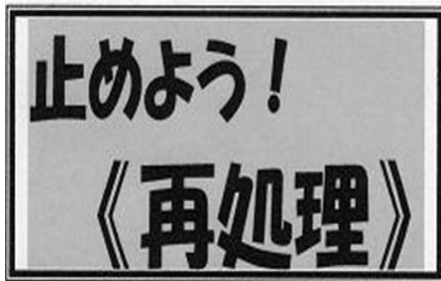
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2012(平成24)年

3月 9日

第110号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

再処理工場は 撤退の準備を急げ!

第3回 六ヶ所村ラプソディー - 東日本市民サミット



約150人が結集



全体討議

再処理工場再開は危険

映画『六ヶ所村ラプソディー』上映運動を通じて生まれた「六ヶ所村ラプソディー東日本市民サミット」の第三回集会在、二月二日(日)仙台市内に約一五〇人を集め開催されました。

ガラス固化溶融炉技術で隘路に陥った六ヶ所再処理工場は、三年間にわたって休止状態でしたが、新年に入って問題のガラス固化試験を再開しました。今回からは廃液未使用のB溶融炉試験に変更。廃液を使用しガラス溶融を開始して早々ガラスが流れなくなるトラブルが発生し、炉底部ガラスの、ドリルによるくり抜き作業を行いました。しかし、炉底部分のガラスが破片が見つかっています。一昨年夏発見された濃縮蒸発缶の腐食穴はそのまままで運転され、既に劣化の兆しが見られる六ヶ所再処理工場を、このまま試験再開するのは非常に危険な行為といえます。

集会では再処理工場の高レベル放射性廃液の安全対策と即時撤退を決議し、三月七日に日本原燃を訪れ、申し入れを行うことになりました。

六ヶ所再処理工場の根本的な危険性

講演 原子力資料情報室 上澤千尋さん

まず、原子力資料情報室の上澤千尋さんから三・一一以後の核燃サイクル再処理工場の現状についてプレゼンテーションを受けました。

上澤さんは六ヶ所工場の全体的工程図を示しながら、主要な機器装置が約一萬基、配管の長さの総延長が約一三〇〇キロ、配管継ぎ目が約二万六千ヶ所あり、再処理工場が想像を絶する

複雑な化学工場であることを強調しました。そしてこの工程で強烈な放射能をもった物質が硝酸などによって溶かされ処理されているのであり、少しの作業ミスも許されず、地震や津波、航空機事故などによっても過酷事故となり得るとしました。

工場配置図を示し、使用済み核燃料三千トンプールや高レベルガラス固化建屋、同貯蔵建屋が数百メートルで近接していることを指摘し、一ヶ所の事故が連鎖的な事故に発展する可能性も指摘しました。また、「高レベル廃液ガラス固化体キヤニスター」についても安全性の確保が不十分で、三沢基地などの航空機事故についても憂慮されるとしました。使用済み核燃料三千トンプールについて、満杯状態であり、冷却水喪失事故がおこり、人が近づけず制御不能になった場合、六百キロ以上離れた東京付近でも二五〇ミリシーベルトの被ばく、急性障害の恐れというシミュレーションを紹介しました。

再処理工場 放射能汚染 報告1 「岩手の会」

永田文夫さん

二〇〇六年に開始されたアクティブ試験が既に「延期九回、全く竣工のメド立たず」です。六ヶ所工場での高レベル廃液ガラス固化国産技術は完全に破綻しました。

劣化し始めた ガラス溶融炉

まず現在やるつと

ているB溶融炉では、放射性廃液のガラス固化

作業を行ったことがないにも係わらず、開始早々ガラス溶融炉の流

下ノズルに固形物が詰まり、真下からドリルで

孔をくりぬくという作業が行われました。この固形物が炉を構成する耐火レンガであるとすると、長い間未使用のうち

に、炉内レンガそのものが劣化し始めていることを意味します。そのような溶融炉で試験が

成功するとは思われません。そして、前回のA溶融炉での一五〇リ

もこのドリル使用の作業のあとに発生しており、振動などの影響で事故が誘発される危険もあります。

濃縮蒸発缶のひび、修理出来ず

また二年前に濃縮蒸

発缶の温度計部分のパイプに腐食穴が発見されましたが、驚いたことに、穴を補修することが困難なので空気圧で液を押し返す方法で対処しようとしています。事故の原因となる非常に危険な方法です。

工場放射能排出規制法 せいり処理工場 報告2

「豊かな三陸の海を守る会」

田村剛一さん

三・一一大震災により三陸沿岸の村落、市街は壊滅的な被害を受けました。福島原発事故は

周辺地域を放射能で汚染し、被害は東日本一帯に広がっています。この

ような状況の中で六ヶ所再処理工場は来年の本格稼働をめざし試験を再開しました。本格稼働が始まると放射能が

海に流れ三陸の漁業は大打撃を受け存亡の危機に陥ります。

私達の会は再処理工

場が放射能を海に流すことを厳しく規制するために、『放射能放出規制

法』の制定を求めて、国や自治体に請願を続けて来ましたが、岩手県内三

三の市町村のうち三三市町村議会が私達の請願を可決し受理し国への意見書を提出しました。東北各県はじめ、全国において、まず身近な

市町村議会に請願してぜひ放射能の厳しい規制法を実現しましょう。

原発ゼロへ 安全な日本を 全体討論

放射能汚染

宮城県内でも子どもに高汚染の野菜を食べさせてしまったことが測定値

から判明し悩んでいる母親が多い。この秋、東海再処理工場の安全確保について茨

城県の人びととともに、日本原子力研究開発機構に公開質問状を提出し回答書を得た。内容は「絶対安全だ」を繰り返すだ

けの酷いものだった。再質問状を提出する。その回答書には、東海再処理工場の廃液の濃度は「1立方センチあたり百億ベクレル」と記されていた。それが393立方センチもある

のだから恐ろしい。セシウムで計算すると福島原発事故で大気に出出した

量の約九四倍にもなる。首都圏の人びとにこのことを知らせ安全のために立ち上がる。

ガラス固化で行き詰まっている高レベル放射性廃液についてどんな安全策が考えられるのか。電源の確保はもろろんのこと、冷却パイプの破断対策も重要である。水素に

加え爆発の原因となる硝酸塩はどうかなど、心配でならない。日本原燃は作ってしまった廃液の徹底した安全策を講じその

実行に全力を注ぐべきだ。政治

民主党の馬淵澄夫元国交大臣は「プルサーマルは止め、核燃サイクルは凍結すべき」と発言し、

原発再稼働反対署名」が四九人になった。みんな

で地元国会議員に脱原発、再処理撤退を働きかけよう。

再処理は既に約二兆二

東海第二原発廃炉を 「人間のくさり」参加記

二月二六日(日)東海第二原発ハイロアクション・

人間のくさり集会に参加して来た。岩手からは遠いけれど、東京には孫もいるし、お茶の水から日帰りバスが出るという情報があったので申し込んだ。私にとって

茨城は学生時代を過ごした懐かしい土地。東海村付近の松林と紺碧の海が広がるすばらしい風景が思い起こされる。



阿漕ヶ浦公園を出発

午後一時半、東海第二原発と東海再処理工場に近接する阿漕ヶ浦公園に集まったのは茨城県内や首都圏の人びと約七〇〇人。実行委員長の脱原発とう

千億円を費やし今後稼働すると約一九兆円の経費がかかるという。今のうちに撤退するのが最も懸命な選択である。(などの意見が出された)

(まとめ・尚)

盛岡市 大信田尚一郎

相沢一正さんが挨拶。稼働中の原発はあと二基。村長が脱原発を表明し、取手、土浦、北茨城などの自治体で脱原発請願や決議が採択され、ハイロ要求署名も一〇万筆を越え取り組まれている。推進派の画策を許さず原発ゼロを実現しよう。

東海第二原発前まで四〇分ほどみんなで歩いて移動正門から海側まで一斉に手を繋ぎ「人間の鎖」が成功。「ハイロ」を叫ぶ。



約700人が手を繋いだ

次回は東海再処理工場も含めて包囲するもつとつと大勢の人数での人間の鎖をやる。なぜならば、再処理工場には万が一事故が起これば、首都圏にまで大被害を与える危険な高レベル放射性廃液が393立方メートルも溜まっているから。